

絵本作家の趣味と実益

「おしゃれなおたまじゃくし」「おなかぼこぼこ」などの絵本を子育て中のお母さんたちは、一度は目にすることがあると思います。荘園町に住んでいる塩田守男（しおた・もりお）さん（79）が作者だったのです。自然の風景が大好きで、野生の熊に会いたくて東北や北海道でキャンピングカーを今日も走らせています。

塩田 守男さん
（荘園町）



北海道話に夢中の塩田さん

寒い冬は九州方面で温泉巡り。6月中ごろから美しい自然を求めて北海道へ夫婦で出かけています。キャンピングカー歴は30年ですが、愛車は長く大事に使っています。きれいな車体だから何台も乗り換えていると思っていたら、現在の車が2台目と聞きびっくり。夫婦と愛犬が同乗して鶴、熊を追っかけて毎年北

海道へ1カ月余り出かけているそうですが、愛犬が亡くなり、奥さんは車での生活が辛くなり、最近は同行していないそうです。年齢から考えて、塩田さんが一人で運転するのは大変だろうなと思っていたら、「舞鶴からフェリーで北海道へ行くので大丈夫」と、あっさり一蹴されました。「一人だと食事が大変で

なぜ、これほど北海道に執着するのか疑問でした。が、答えは簡単。素晴らしき自然と本物の熊、鶴などを眺め、体に感じたことを本業の絵本に描くためだっ

たのです。塩田さんの趣味は、多彩で「カヌーを操り、乗馬を楽しみ、温泉を捜し野湯に浸かると最高」と一気に饒舌になりました。キャンピングカーを走ら

せ、仕事のネタ探しのあとは、車内で誰にも邪魔されず絵本を描き上げる。誰もが憧れている趣味と実益を兼ねた旅をしているのでした。（金子 征二郎）

キャンピングカーの旅



次の旅を待っている愛車と塩田さん

しよう」と聞くと「北海道のジャガイモやトウモロコシを道の駅などで買って、茹でるだけ。簡単で美味し

い。しかし、2〜3キロは痩せますよ」と、こちらも平然としていました。北海道は無料のキャンプ場が多くて、旅をするには最適どころですが、困ったことも。野菜は優しい農家の人が分けてくれたりし

ますが、漁業関係は厳しくて勝手なことは出来ません。海水浴場で流れてきた昆布を拾う位は許されるようです。また「ゴミを捨てるところがなくて、仕方なく有料のキャンプ場で処分している」そうです。

道の駅やキャンプ場は情報収集の場で、仲間が集まっています。丹頂鶴の穴場は教えたくない。教えるとマニアが集まって来て丹頂鶴が逃げてしまうのだそうです。塩田さんは毎回、熊の情報を求めているのです。できるだけ熊に近づき、息遣いを感じたいと1週間も知床でじっと待ち続けたこともありました。残念ながら会っていません。

知床で熊を待ち続けて1週間